

タウンミーティング（小松地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 11 月 22 日（金） 19 時 30 分から
- 場 所 小松公民館 1F 大会議室
- 参加者 連合自治会小松支部長、連合自治会小松支部理事 3 名、連合自治会小松支部監事
小松地区老人クラブ代表、立志隊（元祖おやじ部長・小松地域愛護班連絡協議会長・小松地区
区婦人会副会長・まちでこ代表・市消防団小松分団長・小松小 PTA おやじ部長・元小松小学
校長・小松藩主の墓所を守る会長・社会福祉協議会小松支部長）
市長、経営戦略部長、小松総合支所長、市民協働推進課長
- 傍 聴 7 人
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（連合自治会小松支部長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 地域課題「これからの地域づくり」について《市提案》
 - (1) 課題等の経過等内容説明（市民協働推進課係長）
 - (2) 参加者自己紹介
 - (3) 意見交換
 - 6 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（連合自治会小松支部長）

○会議録

1 挨拶

【連合自治会小松支部長】

本日は夜分にもかかわらず自治会、各種団体、市長にご参加いただき感謝する。

このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり、地域が主導して開催するもので、市長に地元へおいでいただき、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話合うことで、私たちの声を活かした愛着の持てる地域づくりを行うことを目的としている。

小松地区では、去年の 2 月 20 日に第 1 回目を開催し、今回 2 回目の開催となる。前回はテーマを「子育てのしやすいまちづくり」として、小松をどういうまちにしたいかを話し合い、今それをきっかけに地域での話し合いがスタートしている。

今日は、そのメンバーである「立志隊」の皆さんにも参加していただき、「これからの地域づくり」について、市長も交えて、地域の皆で話し合い、各自治会・各団体それぞれの意見を共有し、より多くの方に関心が広がる会議を皆さんの協力をいただきながら、進めて参りたいと考えているので、よろしくお願い申し上げます。

【市長】

皆さん、こんばんは。本日はお疲れのところ、小松地区のステークホルダーの皆様にお集りいただき、タウンミーティングが開催できることを本当にありがたく、うれしく思う。

さて、第 1 回目の平成 29 年度のタウンミーティングは手探りの状態だったが、継続してやっていくということ、予算措置をするような案件があれば次年度の当初予算に間に合わせたいという思いもあり、今年は 6 月からスタートし、5 か月かけて 28 地区を回っていくこととし、今日の小松、そしてあと 2 地区で終わることになる。

ひざを突き合わせながら懇談をし、地域の課題解決に向かうためのスタートにする、そんなタウンミーティングを目指しており、今後どのような形にしていくか色々相談をしながら、次年度も続けたいと思っている。よりよい「まちづくり」に向けて、是非とも皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、限られた時間だが、今回で終わりではなく、これからの話も含めて意見交換したいと思うのでよろしくお願いする。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料 (1))

3 地域課題「これからの地域づくり」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【市民協働推進課係長】(参照別紙資料 (2))

(2) 参加者自己紹介

(3) 意見交換

【参加者】

小松には好きなお店、良いところがたくさんあるが、最近気になったのは、去年スーパーが一つつぶれて、近所の方が「どこに買い物に行ったらええの」と後から言っているが、普段から皆が近くで買い物をしていればと思う。

また、災害時の避難における地域の要支援者を把握するため、先日市役所において高齢者など要支援者の名簿をいただいたが、その中に死んだ人の名前が残っていたり、入れるべき人が入ってなかったりした。地域の自主防災士の30人余りが皆で寄って、そのリストからそれぞれの班の中の名簿内容をチェックしたが、前述のような内容の意見が多数出ている。皆が集まったらほとんどの情報を持っており、市の名簿よりも詳しい。

もう一つは、石鎚山があるから小松は災害がないと言う人がいるが、とんでもない話で、私の消防士としての経験から言うと、がけ崩れや川の氾濫、堤防の越水など、そんなに災害と縁遠いまちではない。今の皆さんは知らないかもしれないが、私が小学生の時に台風が小松町を通過したことがあり、その頃から地形は変わっていないので、今後グレードアップした台風が来るのは間違いない。今はどうともないが油断したら大変なことになる。防災士の立場から言うと油断は禁物であり、ちゃんと備えをしておきたい。

【市長】

名簿については、更新時期や、情報提供に本人の同意が必要なことなどで、不十分な部分もあると思うが、それをたたき台に地域の皆様で更新していただくと、よりリアルなものになっていくと思うので、カスタマイズして活用していただきたい。

【係長】

小松の「好きなお店」「大切にしていきたいもの」「守っていきたいもの」を更にどのようにしていけば伸ばしていけるか、守っていけるか、残していけるか、それらに向けた課題についても、皆様よりご意見をいただきたい。例えば、団体の悩みや課題、連携・協働、もっとこうしたらよいのではということや、そのためにはこういったものが必要じゃないかというように、少し難しいテーマだが、なんでもよいので色々とお話をしていただきたい。

【参加者】

前回の時に「あいさつは小学生が一番できて、徐々にできなくなる」という話があったが、最近は様子が変わって、高校生、中学生は向こうからあいさつしてくれることが増えている。特に高校生は運動部の生徒が顕著である。一方で小学生は、あいさつをしない子とする子の差が出ているように思う。

【参加者】

偶然だが、今日、小松中学生と年に一度の「中学生と語る会」をしており、その後のタウンミーティングで市長をはじめ、色々な方々がいらっしゃるので「大人に言いたいことは何か」と聞いてきた。

まず「小松中学生が考えていることは何か」と聞いたら答えは「あいさつ」だった。生徒会の生徒が、朝校門や玄関口に立って「おはよう」と毎朝あいさつをして頑張っているが、「僕たち」「私たち」があいさつしても、大人があいさつしてくれないのは朝から気分が滅入ると言われた。大人にも引っ込み思案の方や恥ずかしがり屋の方はいるのでごめんねと言って帰ってきたが、私たち大人も頑張ってあいさつしないといけない。もう一つ、小松にお店がなくなっていくのがものすごく寂しいと、お店がないから自分たちが市外へ出ていかないとダメだと言われ、問題であると思った。

そしていつも同じ質問をしているが、10人程の生徒会の子どもたちに、将来小松に帰ってくる気持ちはあるかと聞いて、帰りたいと答える子が正直年々減っている。子どもたちが将来帰ってきたいという時に、きちんとした受け皿がないと生活していけないので、もっともっと「まちづくり」を頑張っていかなければいけないと思う。小松小学校も今年の校長先生があいさつをすごく頑張っていて、子どもたちもど

んどんあいさつすると思うので、皆さんも明日から子どもたちに会ったら、だれにでも「おはようございます」と言っていたきたい。

【参加者】

あいさつはおやじ部でも、中学校で月 1 回と小学校は日曜参観の時にあいさつ運動に行っているが、恥ずかしがり屋でなかなか顔を上げてくれない子もいるし、強面のおやじたちもいるので、少し怖がっている子どもたちもいるかと思う。地域でこうして色々な団体の方々が集まってきているが、この横のつながりをもっともっと密にして、何が必要かということ色々なところから上げていって、小・中・高校生とか子どもたちの意見をどんどん聞いていくことが大事だと思う。子どもたちが地域の大人について知る機会を増やし、尊敬できる大人や好きな場所、尊敬できる建物等、こんな良いものがあるということを知らせていくことが、小松に将来帰ってきたい子どもたちを育てていくことになると思う。小松の良いところをどんどん伸ばせれば、色々な課題も解決できると思うので、団体の皆さん方と再々顔を合わせて意見交換できると良い。

【係長】

まず大事なのはそれぞれの相手を知ること、そこから初めて連携・協働がでてくると思う。課題の解決のためには、個別の団体だけでは難しいので、参加・連携・協力・話し合いの必要性が、これまでに重ねてきた意見交換の中で生まれてきたと思う。各種団体を横につないでいく仕組みが、立志隊のこれからの検討課題になると思うが、何かアイデアがあればいい。

【参加者】

規約等を時代風のものにしようとか、ビジュアルから入って、公民館を中心にして市民が抱えている問題等を集める「目安箱」を作ろうという話が以前立志隊の会の中で少し出た。その中から選別して対応するのではなくて、全てちょっとしたことでいいので反映する、小学生の意見でも一件一件なんでもちょっと皆で考えて反映できるような「まち」にしたらどうかと思う。選別した一つのことに焦点を当てるのも良いがそうではなく、都会なら大勢の中の一人でも、地方なら自分も当事者であるという意識が生まれるよう、小松は年代で差別なく、子どもの意見も反映してくれるという「まち」にしたらどうか。その受け口として、インターネットや SNS 上でも自分の意見が出せる仕組みを作ったらどうかと思う。目安箱に意見を入れる昔ながらのやり方に加え、SNS でも対応できるような、子どもたちも含め自分の意見をまちづくりに反映できるシステムを作ったらどうかと思う。

【参加者】

今、小松高校のライフデザイン科の 1 年生と一緒に文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に取り組んでおり、この間から、地域課題を色々研究して、もっと小松を発信しようということに取り組んでいる。SNS を使って「小松」をアピールしたり、インスタ映えする「萌える場所」というか、「いいね」というところを一緒に作ろうという活動を少しずつ進めている。立志隊の活動にも高校生の意見を取り入れさせていただいて、若い世代の感性を取り入れることができたらいいと思う。

小さい課題に対して皆が考え、顔を突き合わせてああでもない、こうでもない話し合っ、時間はかかると思うがゆっくり育てていければいい。

【参加者】

そんなに表立ってはないが、自治会の取り組みとしては 3 世代交流に力を入れていて、何年か前から予算化して取り組んでおり、来月にも餅つき等をする。これらをもっと積極的に皆でやってもらいたいと思う。

【参加者】

この頃の高校生は、非常に素晴らしい考え方を持っている。私も高校生と席を同じくする会議を何回も経験したが、非常に良いアイデアや考え方がある。高校生と交流する方法として、国からの補助金を受けて小松高校生が、小松の名産品を創る取り組みをしているところへこちらからの課題を投げかけて、この会がもっともっと活性化できるようなことを一緒に考えるのはどうか。

また、今日テレビで小学 6 年生の子どもが、ボール遊びをしているグラウンドに別の施設ができ、使用できなくなるということで、自分の市の市長に直訴する姿を見た。小学校の高学年にもなると、ちゃんとした考え方を持っていて、見習いたいと思う。

【参加者】

大人は結構頭が固くて、言うことが固定化されて面白くないが、小学校・中学校ぐらいの子は何を言うかわからないので、アンケートを取って小松をどんな風にしたいとか、小松の悪いところはどんなことがあるかを聞くと結構面白い答えが返ってくるのではないかな。今日のメンバーの中にも子どもたちに関わっ

ている人がたくさんいるので、そのようなことを一回やってみて公開してくれたらうれしい。

【係長】

今日の話し合いの中で、子どもや高校生を含め多様な世代を、これから地域づくりの中に意見として取り入れていったらどうかという提言もあったので、小松で立ち上がった立志隊の中で、これから色々な検討を重ねていただき、市役所も参加させていただきながら、100年先も安全で安心して暮らせる小松の実現に向けて色々考えて、一緒に取り組んでいきたい。

4 閉会

【市長】

やっぱり小松はいいなと感じた。それはこの場に思いを持った人が集まっているということなので、それ以外の人にどのように発信するか、巻き込んでいくかということをもた一つ課題として考えていかなくてはならない。ここまでざっくばらんに和やかな雰囲気での話し合いができるというのは、やっぱりそこに小松藩、篤山先生の魂があるのかなと感じた。

あいさつが一番簡単にできるコミュニケーションで、私もこの職についてから毎月20日は「あいさつデー」で、8時までに行き職員とあいさつをするが、今日の話の小学生と同じような状況があって、あいさつを返してくれると本当に気持ちが良いのに残念だと思ふことがある。若い職員も一緒に外に立って来てあいさつ運動をしており、なかなかできないが本当は、小松にも丹原にも東予にも行きたい。あいさつすると気持ち良く、良いスタートが切れるということで、一番初めにできるコミュニケーションであるので、我々行政マンとしても市民の皆様とコミュニケーションを取る意味では大切なことである。あいさつができる小松ということをもさらに進めていってほしい。

また、小松のパワーというのは西条市をリードしてくれるものだと改めて感じた。立志隊による地域づくりを始めていただいているが、小松が西条をリードするくらいやっていただきたいと思う。ハード面が我々行政の仕事の一つであるが、高校生が横断する小松の駅前安全についても、宝寿寺からも一つ向こうの信号まで工事をスタートさせ、小・中学生の通学路の安全の確保についても動き出したことをお伝えさせていただく。ハード面は特にお金があればできることだが、先程のあいさつも含めて、地域づくりはお金だけで解決できないことがある。ここをどうしていくかが我々行政にとっても、先程のテーマであった連携・協働になっていくと思う。自然災害も激甚化してきており、なかなか公助の手が届かないところで、自助・共助が大切であるが、地域づくりについても皆様の協働が必要になってくる。こういったことも持続可能なまちづくりのために大切な部分だと思っており、是非とも我々と一緒に汗をかいていただければありがたい。我々行政も熱い心で臨んでいくので、引き続き小松校区の皆様のご協力、ともに歩んでいくことを確認させていただき挨拶とする。これで終わりではなく、今後も引き続きお付き合いをお願いします。

【連合自治会小松支部長】

本日は、お忙しい中、市長や地域の皆さんに出席いただき、小松地区の「これからの地域づくり」について課題や取組などを共有するができた。各団体に帰られても、更に話し合いを広げていただき、今後この小松地区をどのように盛り上げていくか、それぞれの団体で、それぞれの立場で引き続き考え、地域づくりにご参加いただきたい。

また、行政の皆さんには活動に際し、色々とお話や支援をお願いします。今後も市と協力しながら、住民同士が支え合える地域づくりを目指し盛り上げていきたい。

皆さん、本日は感謝する。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

